



【協議事項2-1】

NGO-JICA協議会 SDGsに係るJICAの取組等について

2016年12月15日

JICA 企画部SDGs推進班



1



SDGsポジション・ペーパーの策定

■ SDGsポジション・ペーパーの策定

・2016年9月にJICA SDGsポジション・ペーパー（SDGs 総括編）を策定・公表。

■ 経緯・位置づけ

・SDGsの採択を踏まえ、SDGsについてのJICA総体としての取り組み方針を整理したもの。

【参考URL: JICAナレッジサイト】

<http://gwww.jica.go.jp/km/FSubject9999.nsf/B9EBD9A793E2456249256FC E001DF569/99669701083D9424492580510011FBDB6?OpenDocument>

2



SDGsポジション・ペーパー SDGsにかかるJICAの協力の3本の柱

【SDGsにかかる JICA の協力の 3本の柱】

1. JICAは、国際社会の平和、安定、繁栄を目指し、人間の安全保障と質の高い成長を実現する。SDGsは、この理念を加速、推進するものであり、JICAはリーダーシップを発揮しゴールの達成に積極的に取り組む。
2. JICAは、我が国自身と開発協力の経験を活かし、SDGsの10のゴールについて中心的役割を果たす。
【10のゴール：飢餓・栄養、健康、教育、水・衛生、エネルギー、経済成長・雇用、インフラ・産業、都市、気候変動、森林・生物多様性】
3. JICAは、SDGs達成を加速するため、国内の知見の活用、国内外のパートナーとの連携、イノベーションを図り、SDGsの達成に向けてインパクトを確保する。

3



SDGsポジション・ペーパー JICAのSDGs各ゴールの捉え方



JICAの取組事例(1)

日本含めアジアの生活習慣病は死因第一位

地域別の死因
(2010年、2012年)

3 すべての人に健康と福祉を

途上国と日本が共通の課題を持つ時代

生活習慣病対策プロジェクト(フィジー、キリバス) (2015年～)

- ・感染症疾患から生活習慣病(糖尿病、高血圧等)の疾病構造転換が進んでいる。
- ・JICA、両先方政府の生活習慣予防対策に係る実施運営能力等を支援。
- ・また、対象国は2か国とし、両国が相互に課題を共有しながら、現状を改善することを支援。

「日本からの支援」から「途上国同士も学ぶ支援」へ

3 国連SDG目標

JICAの取組事例(2)

【現状】

ベトナム ホーチミン市では、フランス統治下時代に布設された管渠を含む下水道管網が老朽化。老朽管路更生にあたり、交通量が非常に多く開削での老朽管路の更生が困難なため非開削での管路更生工法の導入が必要。

6 安全な水とトイレを世界中に

17 パートナシップで目標を達成しよう

■草の根技術協力(地域提案型)

2011年度に大阪市とホーチミン市の下水道分野の技術協力協定が締結され連携が進む中、2013年にはJICAによる大阪市が実施主体となった草の根技術協力を実施し、老朽管路更生に関するニーズを確認。

■民間技術の活用(民間技術普及促進事業)

2015年度よりホーチミン市を対象に積水化学工業株式会社の非開削管路更生工法を用いた老朽管路更生のモデル施工(試験実証)を実施。

■無償資金協力事業(自治体連携無償)

2016年度に実証結果を踏まえ、大阪市のホーチミン市における下水道管路更生工法を用いた老朽下水管の修復事業を無償資金協力案件として提案し、条件付きで採択された。(協力準備調査実施中)

民間企業・地方自治体と連携した開発課題解決を支援

6 国連SDG目標

JICA SDGs達成に向けたNGOとJICAの連携に向けて

NGOの強みは様々あると考えられるが、例えば以下のようなものが挙げられる。

1 国内・外の現場への近さ

(1) SDGs自体の日本の市民への理解促進が重要な中で、海外の現場を持つ各地のNGOにより開発教育等の更なる普及が可能。(開発教育等での連携等)

(2) 日本・途上国での共通の課題に対して、国内での知見・経験を活かした途上国への支援が可能。また、現地政府、ドナー、民間企業では対応しきれず、取り残されている人・課題への支援が可能。(SDGsを踏まえた草の根技術協力での連携等)

2 高い機動性

(1) SDGs達成に不可欠な新しい発想・イノベーティブな取組の実施や、同取組を生み出すプラットフォームの構築が可能(例: SDGsの視点をふまえた民間企業へのCSRのコンサルティング、イノベーションを生み出すプラットフォーム構築への試験的取組等)。(セミナー等での連携等)

7 国連SDG目標

JICA

参考資料

8 国連SDG目標



SDGsポジションペーパー 各ゴールについての方針

持続可能な開発目標 (SDGs)	総合的な取り組みによって達成に貢献するゴール	開発の基礎となるゴール	JICAが中心的な役割を果たしていくゴール	いずれの事業においても確保が必要な実施手段としてのゴール	市民社会や民間企業を支援し、JICAが触媒となるゴール
1 貧困をなくそう (貧困撲滅)	●				
2 飢餓をゼロに (飢餓・栄養)		○	●		
3 すべての人に健康と福祉を (健康)		●	●		
4 質の高い教育をみんなに (教育)		●	●		
5 ジェンダー平等を実現しよう (ジェンダー平等)	●				
6 安全な水と衛生を世界中に (水・衛生)		○	●		
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに (エネルギー)			●		
8 働きがいも経済成長も (経済成長・雇用)			●		●
9 産業と技術革新の基盤をつくろう (インフラ・産業)			●		
10 人や国の不平等をなくそう (格差是正)	●				
11 住み続けられるまちづくりを (都市)			●		
12 つくる責任、使う責任 (持続可能な生産と消費)			○		●
13 気候変動に具体的な対策を (気候変動)			●		
14 海の豊かさを守ろう (海洋)			○		
15 陸の豊かさを守ろう (森林・生物多様性)			●		
16 平和と公正をすべての人に (平和・ガバナンス)	●				
17 パートナリーシップで目標を達成しよう (実施手段・パートナーシップ)				●	

注) ○は国や地域の状況により●となるもの。